

第10回エネルギー持続性フォーラム
公開シンポジウム



エネルギー・資源・環境の統合による 循環共生型社会の創生

主催 東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S)

共催 昭和シェル石油株式会社

協力 三菱地所株式会社

日時

2015年
2/18 (水)
13:00 ~ 17:30

会場

丸ビルホール
東京都千代田区丸の内2-4-1
(丸ビル7階)



●お申し込みはこちらから。参加費は無料です。●

<http://www2.ir3s.u-tokyo.ac.jp/esf/symposium.html>

【お問い合わせ】

第10回公開シンポジウム 連絡担当 株式会社サイマル・インターナショナル内
Tel : 03-3524-3133 Fax : 03-3524-3135 E-mail : ir3s@simul.co.jp



三菱地所



Energy
Sustainability

エネルギー・資源・環境の統合による循環共生型社会の創生

気候変動の激化や生物多様性の減少、化石燃料の大量輸入による国富流出、地域経済の疲弊、人口減少・超高齢化社会やコミュニティの衰退など、わが国が直面する環境、経済、社会の諸問題は、それぞれが深刻であるのみならず、相互に密接に関連し、複合的な様相を呈しています。

こうした問題を解決する道筋を示すために、中央環境審議会は、2014年7月に、22世紀を見据えた政策ビジョンとその基本戦略として『低炭素・資源循環・自然共生政策の統合的アプローチによる社会の構築～環境・生命文明の創造』と題する意見具申をまとめ、都市と農山漁村が地域資源を補完し合う「地域循環共生圏」の構築が重要であると指摘しています。

とくに、再生可能エネルギーの活用、自然資本ビジネスの確立、豊かな長寿社会の構築を統合的に進めることは、「地域循環共生圏」の構築にとってとくに急務の課題となっています。

そこで、本シンポジウムでは、わが国の環境・経済・社会政策の最新動向や地域での実践的な取り組みを踏まえて、持続可能な「循環共生型社会」の実現に向けた提言を試みます。

講演者紹介



武内 和彦
Kazuhiko Takeuchi
東京大学国際高等研究所
サステイナビリティ学連携研究機構 (IR3S)
機構長・教授



会場 直人
Naoto Aiba
三菱地所株式会社
代表取締役専務執行役員



植田 和弘
Kazuhiro Ueta
京都大学
副学長・教授



中井 徳太郎
Tokutaro Nakai
環境省
大臣官房審議官
(総合環境政策局担当)



藤井 絢子
Ayako Fujii
NPO 法人菜の花プロジェクトネットワーク
代表



菊池 康紀
Yasunori Kikuchi
東京大学総括プロジェクト機構
「プラチナ社会」総括寄付講座
特任講師



尾畑 留美子
Rumiko Obata
「真野鶴」五代目蔵元・尾畑酒造株式会社
専務取締役



鶴 滋人
Shigeto Tsuru
昭和シェル石油株式会社
石油事業本部
研究開発部長



伊藤 智明
Tomoaki Ito
昭和シェル石油株式会社
常務執行役員

プログラム

開会挨拶	13:00 ～ 13:05	武内 和彦	
	13:05 ～ 13:10	会場 直人	
基調講演	13:10 ～ 13:45	植田 和弘	『再生可能エネルギーが拓く持続可能な経済社会』
	13:45 ～ 14:20	中井 徳太郎	『低炭素・資源循環・自然共生による環境・生命文明社会の創造』
講演	14:20 ～ 14:35	藤井 絢子	『食とエネルギーの地域自立 ～地域に生業とにぎわいを創るー滋賀県東近江市ー』
	14:35 ～ 14:50	菊池 康紀	『地域資源・エネルギーと社会システムイノベーション』
	14:50 ～ 15:05	尾畑 留美子	『幸せを醸す酒造り～佐渡・学校蔵プロジェクトの取り組み』
	15:05 ～ 15:20	鶴 滋人	『循環共生型社会に向けたエネルギー企業の取り組み』
	《15:20 ～ 15:40 休憩》		
パネルディスカッション			
	15:40 ～ 17:25	『地域循環共生圏の構築による地域の創生』 モデレーター：武内 和彦 パネリスト：上記講演者6名	
閉会挨拶	17:25 ～ 17:30	伊藤 智明	